

mps 東京大学大学院工学系研究科 都市持続再生学コース
Master's Program in Sustainable Urban Regeneration

東大まちづくり大学院

Urban Engineering Civil Engineering Architecture

2013年度コース案内

contents

目次

東大まちづくり大学院で学ぼう.....	1
教員紹介.....	2
教育プログラムの特色.....	4
第六期生座談会.....	6
修了要件と学位.....	8
入学試験.....	9



東大まちづくり大学院で学ぼう

(工学系研究科 都市工学専攻 都市持続再生学コース 社会人向け修士課程)

社会人のためのまちづくり大学院

東大まちづくり大学院(都市持続再生学コース)は、社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識をもった専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

学生像は、自治体都市計画関係職員・政府機関職員、不動産・建設・その他関連企業都市開発担当者、まちづくりNPOメンバー、まちづくりに関心をもつ社会人など多岐にわたると想定されており、実際に在校生は年齢20代から60代まで、出身大学は北海道から九州まで、職場も自治体あり、民間企業ありと多彩であり、留学生もともに学んでいます。

人口減少、国際化、情報化等が進行する中で大きく変わる都市社会やまちづくりに、最新の知識と深い思考で立ち向かうために、ぜひ「東大まちづくり大学院」で学んでください。

特 徴

■在職したままで修了可能

夜間・土曜日の受講により在勤のまま所定の単位を修得することが可能です。

入学時に長期履修学生制度を申請すれば、同額学費で修学年限を3年または4年に延長することも可能です。

■横断的な教育プログラム・充実した講師陣と産学官の連携

東京大学大学院工学系研究科の3専攻の協力体制のもと横断的な教育プログラムを展開します(学生の所属は都市工学専攻)。教授陣は、学術面においてトップクラスの第一人者や新進気鋭の若手教員の他、国土交通省等の官庁・自治体等で豊富な実務経験を有する優れた専門家で構成されています。また、本コースの中に、不動産関係3社、建設関係5社、エネルギー関係1社、住宅関係1社、電機関係1社の合計11社の協力で、寄付講座(都市持続再生学寄付講座 Laboratory for Urban Sustainable and Renaissance Studies)が開設され教育・研究に当たっています。

■教育プログラムの特色

実践に必要な理論、知識、技法・技術を学ぶための文理融合型講義内容です。

持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくりなどの現代的な都市再生課題を取り上げます。広範囲な基礎知識を講義で身につけ、理論や技法・技術の応用・活用方法については、演習で理解を深めるといった段階的な教育プログラムを採用しています。仕上げは、個別指導による修士論文のための研究で行います。

dean of the school of engineering

Prof. Noboru Harada



■工学系研究科長 原田 昇 教授

工学系研究科では、社会の要請に応じて多様なプログラムが提供されています。この都市持続再生学コースは、まちづくりに関する社会的要請に応じて、社会の第一線で活躍する人たちに、まちづくりの最新の知識を提供し、まちづくり演習を通して実践的な知識の活用を提供する大学院コースです。高い問題意識を持った学生が、都市持続再生学コースで学ぶことにより成長し、復興、事前復興、生き生きとした超高齢社会の創成など、次代のまちの創出に貢献することを期待します。

chairs of the departments concerned

Prof. Yuichi Moriguchi



■都市工学専攻長 森口祐一 教授 専門分野：資源・廃棄物管理、物質フロー分析、ライフサイクル評価

都市という空間、そこでの人々の営み、これらを支える物資や施設は、都市をとりまく地域、さらには地球全体の環境と複雑に関わりあっています。実社会の現場で日々直面する現実と向き合っただけならず、「木を見て森を見ず」に陥らない幅広い視野と深い洞察力を身につけることや、溢れる情報を精査してわかりやすく伝えよう力を磨くことが大切です。より大きな可能性を将来の世代に遺せるまちづくりについて、共に学んでいきたいと考えています。

Prof. Toshio Koike



■社会基盤学専攻長 小池俊雄 教授 専門分野：河川工学、水循環の科学、環境心理学

人口減少、少子高齢化や気候変動に伴う脆弱化に対して、都市の安心・安全性、快適性、文化性、経済的活力を維持するためには、20世紀型の空間的・量的拡大に対し、様々な主体間の情報共有を進めて、都市を設計、管理する新たな考え方が求められています。本コースでは三つの専攻から幅広い分野の知識・ノウハウを提供し、よりよい生活基盤をつくり、自然環境にも調和したまちづくりをめざすとともに、皆さんが直面されている様々な問題を一緒に考え、その解決策を見つけていくことを目指します。

Prof. Hiroshi Shibara



■建築学専攻長 塩原 等 教授 専門分野：建築構造・耐震工学

将来予測される地震・津波などの従来の想定を超える複合災害に対して、人命を守り普段の社会生活を円滑に取り戻すことができる建築・都市のあり方が求められています。しかしその解は、個々の地方・地域の特性に根ざしたものであり、唯一の解はないはずです。このことを念頭において、本学でまちづくりに関する幅広い知識と実践例を吸収し、次世代のまちづくりのリーダーとなられることを期待します。

Prof. Junichiro Okata



■まちづくり大学院 コース長 大方潤一郎 教授 専門分野：都市計画、土地利用計画、都市空間変容のコントロール手法、自治体固有の都市地域空間のマネジメント・システム、超高齢化社会対応のコミュニティの社会的空間的デザイン

東大まちづくり大学院は第2期・6年目に入り、初代コース長の大西隆教授の後任としてバトンを受け継ぎました。学生の皆さんは、多忙な中、仕事と勉学を両立させ、修士研究を行う努力に敬服します。修士論文では、かねてから温めてきたテーマに取り組んだものが多いことは当然ですが、協働のまちづくり、持続可能なまちづくり等、現在の課題にも鋭く切り込んだものが見立ちます。先端的研究を通じて、現代社会のまちづくりに役に立つ発想、知識と技法を身につけ、現場のプロジェクトチームをリードする人材が、今後多数輩出されることでしょう。



■都市工学専攻

浅見 泰司	教授	居住システム、都市住宅学、空間情報解析
和泉 洋人	教授	住宅・都市政策、都市計画・建築規制制度論、地域活性化政策
大方潤一郎	教授	土地利用計画、市街地整備手法
大森 宣暁	准教授	都市交通計画、交通システム分析
片山 健介	特任講師	国土・地域計画、地域政策、広域ガバナンス論
城所 哲夫	准教授	国際都市地域計画、開発途上国都市計画
窪田 亜矢	准教授	都市デザイン、空間計画設計
小泉 秀樹	准教授	住環境計画、まちづくり論、参加型都市計画
小出 治	教授	都市防災論
瀬田 史彦	准教授	国土・都市計画、地域開発、グローバル都市論
花木 啓祐	教授	地球環境工学、都市環境保全、都市物質フロー解析
原田 昇	教授	都市交通計画、都市交通論
古米 弘明	教授	水質環境保全、都市雨水管理、下水道
森口 祐一	教授	資源・廃棄物管理、物質フロー分析、ライフサイクル評価
横張 真	教授	緑地環境計画、ランドスケープ計画、サステナビリティ

ほか、都市工学専攻教員

■先端科学技術研究センター

西村 幸夫	教授	都市デザイン論、都市保全計画
-------	----	----------------

■生産技術研究所

加藤 孝明	准教授	地域安全システム学
-------	-----	-----------

■社会基盤学専攻

家田 仁	教授	国土・都市・交通に関わる計画と政策
羽藤 英二	教授	都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論

ほか、社会基盤学専攻教員

■建築学専攻

隈 研吾	教授	建築家、都市・建築デザイン
------	----	---------------

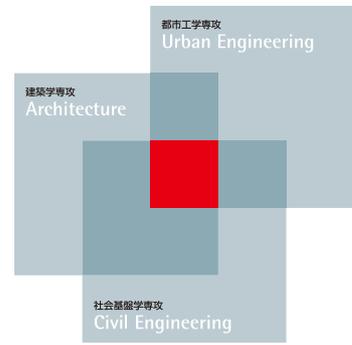
ほか、建築学専攻教員

■非常勤講師(予定を含む)

遠藤 薫	独立行政法人都市再生機構	東日本都市再生本部
笠置 秀紀	ミリメーター	共同代表
河北 秀也	東京藝術大学美術学部	教授
亀卦川幸浩	明星大学理工学部	教授
貞廣 幸雄	東京大学 空間情報科学研究センター	教授
園田真理子	明治大学 理工学部	教授
中野 恒明	芝浦工業大学 システム理工学部環境システム学科	教授
信時 正人	横浜市 温暖化対策統括本部	環境未来都市推進担当理事
前田 英寿	芝浦工業大学 デザイン工学部デザイン工学科	教授
増田 寛也	野村総合研究所	顧問
松行美帆子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	准教授
和良地克茂	日本生命保険相互会社	不動産部 不動産投資開発室長

*教員の最新情報は、東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/faculty.html>)をご覧ください。

教育プログラムの特色



充実したコースワーク

従来の研究重視型大学院教育とは異なり、実践に必要な広範な理論、技法・技術を獲得するため、文理融合型の充実したコースワークを用意しています。

現代的都市再生課題に焦点をあてた段階的な教育プログラム

持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくり、といった現代的な都市再生課題を講義の主題に捉え、これら課題に取り組む際に実際に役立つ理論、知識、技法・技術を身につけ、必要とされる企画構想力・調整能力を養います。

段階的な教育プログラム

異なる講義形式を用いた段階的な教育プログラムにより、効率的に受講生の能力を高めます。広範にわたる基礎知識を座学型講義で身につけ、都市再生実務における理論や技法・技術の応用・活用方法についてはケースメソッドで理解を深めます。そして、実務実践型講義では身につけた知識を活かすために必要となる構想・調整能力を養います。

		1年 冬学期	
講義 (選択) 各1単位 (半学期) 火・水・木・金 (6限、7限)	都市空間政策	都市地域計画論・基礎編 ●都市空間政策の基礎 (都市計画制度概説、都市マスタープラン)	土地利用計画の策定手法、地区レベルの計画策定手法)
		都市情報の分析 I ●都市解析	都市情報の分析 II ●都市情報の理論
		都市と環境 I ●環境工学の基礎	
			都市の交通政策 I ●交通まちづくり、持続可能な都市、合意形成の実践
			都市の交通政策 II ●交通まちづくり、交通バリアフリー、少子高齢化社会
			都市防災概論 ●災害対応を中心とした都市の防災・減災政策
	都市経営基礎 各2単位 (1学期)	都市開発のマネジメント論 ●マネジメントのあり方	
		都市計画・まちづくりの制度 ●都市計画制度とその運用	
	都市経営戦略 各2単位 (1学期)		
演習 各3単位 (1学期) (必修) 全6単位 土曜3-5限		日常生活圏のまちづくり ●少子高齢化社会に対応したまちづくり手法	持続可能な都市圏計画 ●都市圏計画・広域計画の策定
演習 各1単位 (1学期) (選択) 土曜3-5限			
研究 各2単位 (1学期) (必修) 全4単位 随時			

■特別講義(随時開催) ■他コース、他専攻講義(平日昼間開催・自由選択) ■演習(選択)については、学生の希望に応じて内容を変更する事がある。

■講義

都市空間政策 (選択:1単位/半学期)

都市の空間計画、交通政策、環境政策、安全・安心、都市福祉政策、都市のガバナンスといった広範な領域について、充実した講師陣による最先端の講義によって、現代の都市づくり・まちづくりに必要な知識を獲得します。

都市経営基礎 (選択:各2単位/1学期)

マネジメント、行財政制度、住宅・不動産開発、都市社会論といった広範な領域について、社会科学系の基礎知識を体系的に獲得します。

都市経営戦略 (選択:各2単位/1学期)

都市の産業と経営戦略、都市の文化・観光政策といった講義群により、都市経営や都市政策の立案に必要とされる、より実践的な知識を獲得します。

■特別講義

省庁担当官等による都市関係制度・事業、自治体による先駆的試み、最新の都市開発事例、海外の著名研究者による講義、海外都市計画大学院との相互交流演習等を予定しています。

■演習

まちづくり演習 (1年次) (必修:3単位/1学期 全6単位)

日常生活圏のまちづくり、持続可能な都市圏計画、中心市街地＝ダウンタウンの再生、都市空間・環境・コミュニティのデザインの4つの主要課題を対象に、都市再生の第一線で活躍する専門家(非常勤講師を含む)による実践的指導のもと、政策・手法・戦略・事業の企画構想・提案を行います。演習では、ケースメソッド方式の講義を踏まえつつ構想・提案を行います。

まちづくり演習 (2年次) (選択:1単位/1学期)

まちづくりのマネジメント、都市開発事業の企画設計といったテーマをもとに、自由選択で行います。

■研究

都市持続再生学特別演習 (修士研究 必修:2単位/1学期 全4単位)

学生の実務・関心に直結した研究を2年次より行います。

講義：平日夜 火・水・木・金

6限：18：30～19：50、7限：19：55～21：15

演習：土曜日 3-5限：13：00～18：10

研究：随時

1年 夏学期	2年 冬学期	2年 夏学期
都市地域計画論・街並編 ●都市デザイン ●歴史的町並みの保存	都市地域計画論・コミュニティ編 ●高齢化・人口減少時代の住宅政策 ●住宅コミュニティづくり	
	都市と環境 II ●環境工学の応用	
安全安心まちづくり論 ●日常的な危険への対応		持続可能な都市圏計画論 ●各国の都市圏計画
高齢化社会のリデザイン ●医療・介護・福祉等の制度、空間的・社会的システムの再編	緑地環境計画論 ●都市や郊外の緑地、農地、里山の持続的な整備と保全	
都市ストックのマネジメント ●補修・転用・長寿命化の手法		
都市地域政策の構想と展開 ●政策担当者による講義		
都市と住宅・不動産開発 ●都市・不動産開発の実務		都市社会論 ●社会学的な視点と都市問題
都市産業と経営戦略 ●産業活動の動向とイノベーション		都市の文化・観光政策 ●都市における文化と観光要素
中心市街地＝ダウンタウンの再生 ●快適性、美しさ、賑わい、路上空間の活性等の戦略と手法	都市空間・環境・コミュニティのデザイン ①アーバン・デザインコース ②ランドスケープ・デザインコース ③コミュニティ・デザインコース	
		まちづくりのマネジメント ●復興支援
		都市開発事業の企画設計 ●都市と住宅・不動産開発
		修士論文研究
		修士論文研究

*上図は、各講義の大まかな開講時期と概要を示しています。より正確な開講時期やシラバスは、各学期開始前にご確認ください。
 また、現在のシラバスは東大まちづくり大学院のサイト (<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/curriculum.html>) でも公開しています。

第六期生座談会—東大まちづくり大学院に学びはじめて

2012年10月に入学して約3カ月、私たち6期生は公務員、プランナー、建築設計、コンサルタントに加え、議員、マスコミまで業種や職種はさまざま、学ぶ動機も年齢も違うユニークな18名です。それぞれが、どのような社会人大学院生生活を送っているのでしょうか。みんなで集まってランチを食べながら、また日頃のキャンパスライフから、その声をまとめてみました。

■東大 before / after

入学前に抱いていたイメージとは、かなり異なりました。まちづくり大学院(以下、まち大)は思った以上に堅苦しくなくアットホームな雰囲気、勉強を強いられることなく、学生の自主性重視。まちづくりは予想以上に領域が広範で専門性も高く、実践と近い学問でもあるので、先生との敷居もなく生徒同士を含めかなり高度な議論をする場が多いです。クラスメイトも実務で専門的に従事されている方ばかりかと思えていましたが、意外にも文系や別業界? と思える方々もいて結構刺激を受けています。ここでもまちづくりの領域の広さを感じます。そんなこともあり6期生自己紹介ファイルを作成しシェアしています。

■キャンパスライフ

本郷キャンパスは、広くていろんな施設がびっくりするくらい充実しています。本格的なイタリアンの店から親しみやすい学食まで20以上のカフェやレストラン、生協がいくつもあります。一般の人が結構、構内で楽しんでますよ。農学部学食や隠れ家的バーはおすすめです! 大学の図書館も非常に充実していますからぜひ利用してください。インターネット経由で全国にアクセスでき、各地の電子ジャーナルも取り寄せられます。構内の建築物もかなり魅力的、授業前に少し早く来られたら、構内を歩くだけでもアカデミックな雰囲気を味わえます。ただ、平日は夜に授業があるので、キャンパスはいつも真っ暗。一方で先生とのアフター授業が充実したりするので、昼の大学院とはかなり趣が違うと思います。またなんといっても学生なので、映画鑑賞など各種学割も使えて便利です。



■演習地でのヒアリング風景



■演習授業の風景

■授業全般(講義・演習)

M: 講義には、研究者だけでなく、行政や民間の立場でまちづくりの現場で実践的に入っている方々が登壇され、講師陣はバラエティに富んでいます。内容も凝縮されていて、都市計画だったり技術の話だったり、「実はこう思っている」というさっくばらんな裏話みたいなものもありますし、面白いですね。

X: 基本的な内容も講義していただけるのは、あまりまちづくりに詳しくない学生にはありがたいです。例えば「中心市街地活性化」「地区計画」「住民合意」など、共通のテーマを複数の先生から伺うと、より立体的な理解につながる気がします。



■気仙沼にて

T: 最初はよくわからないことでも、提出レポートを書いているうちに自分のものになって面白くなったかな。あと、講義も面白いですが、土曜日の演習でみんなと話しているときの方が、頭が活性化されます。

A: 特に演習課題は、学生それぞれのスペシャリティを組み合わせ、実務を越えてどこまででも取り組むことができるので、その点では相当ハードですね。

K: そうですね。特に、被災地演習では休日返上で四苦八苦していましたが、議論を重ね、苦しんだ中からシステムの問題や自分のやるべきことも見えてきた気がします。今後も、被災地とのやりとりは続けていく予定で考えています。



7期生へ

- T: 入学してからは、本当に嵐のように日々が過ぎていくので、自分自身が何を研究したいか、希望・マイルストーンは常にもつことが必要だと思います。
- Y: 最初から研究テーマが決まっていなくても、いろんな講義、演習を受けながら決める、というスタンスで、模索しながら進んでいくことが大切ですね。
- H: まち大は、年齢も職業もバックグラウンドも異なる学生や先生が1つの場で過ごせるという、刺激的な場ですね。更に幅広い分野の方々に来ていただければ、また新しいまちづくりの視点が生まれていくと思います。
- K: もし、経験の分野が異なっても、まちづくりに熱意があり、不足分を埋めてがんばる強い意志があれば大丈夫。講義ももちろんですが、クラスメートが強力で相当頼りになります。
- F: まちづくりはこれからも非常に大切なビジネス領域だと思いますが、全体の体系化(知やスキームの構造化)や更なる課題解決力が必要ですね。そういった意味ではまだまだ進化途中の領域なので、産官学民全体でのビジネスプラットフォームを創っていくような気概を持った方々にぜひ加わってもらいたいです。
- A: 級長・副級長・会計係・記録係などがいて、学生だなあーって感じますね。飲み会実が多いし、そんなところから新しい何か生まれるんでしょうね。



■ 座談会

コラム

パパ学生の生活

新幹線通学のHさん

通学に往復約4時間かけています。仕事を終え、東京に向かう新幹線でしっかり寝て、頭を切り替えます。帰宅後は、体力の許す限り演習課題などに取り組みます。遅い時は、夜明けの5時半頃までかな。もう無理っていう時は、職場と相談して出退勤時間を調整したりします。残りの時間は家族サービスですよ。演習前の土曜午前中に空手をしたり、日曜は一日中子供につきあっています。そして、夜中にまち大モードに突入。必ず勢いづけに発泡酒を飲み、学生に変身です。そんな酒の肴はまち大同期の笑顔☆

近郊に住むWさん

家族は早くから理解してくれ、「やりたいことは頑張ればいい」と応援してくれています。ただ、平日は帰宅時間が遅くなり、家族との会話が減っています。学校が始まって以降、土曜は演習でほとんど不在になり、週末行事は日曜に集中。子供と遊ぶ時間が限られ、以前よりは負担をかけている様子かな、日曜以外は全て、朝、子供とは「行ってらっしゃい。また明日」という毎日です。私もすまないと思う一方で、正直、もっと自分の時間も欲しいという葛藤もあります。その中で講義のレポートや演習の用意のため、うまく時間を配分して取り組んでいます。いつの間にか常に空いた時間を有効に使うようになり、今までにないとても充実した貴重な時間を過ごしています。



■ 海外駐在中の同期生とのスカイプによる会話

受験ミニアドバイス

- ・ 実は、複数回チャレンジしている人も結構いる。
- ・ 過去問は大事。⇒全部問題を解いて体系的に整理して、対策を深く練っていた人もいました。
- ・ まち大から出ている本はチェックしておきましょう。
- ・ 英語は、読解力が大切!
- ・ 小論文は、持続再生学コースの意味合いを鑑みて、自分の興味・得意分野と掛け合わせて準備しましょう。

修了要件と学位

requirements for graduation

- 所定の 30 単位を修得し、修士論文を提出して合格すること。
学位：修士（工学）



■ 長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限では、大学院の教育課程を履修することが困難であると認められる者に限り、標準修業年限を超えた計画的な履修年限を設定することができる制度です。

修士課程での標準履修年限である2年間で、3年または4年に延長して、計画的に履修することができます。

この制度では、標準履修年限の授業料の総額を長期履修期間として認められた年数で支払うことになります。たとえば、修士課程において、3年の長期履修が認められた場合、1年間に支払うべき授業料(年額)は、2年分の授業料(通常年額×2)の総額を3(3年間)で除した額となります。

入学試験

entrance examination

■出願資格(次の①及び②を満たす者)

- ①大学を卒業した者(詳しくは、学生募集要項を参照してください)
- ②出願時までには都市の計画・デザイン・マネジメント・整備・保全、あるいはさまざまなまちづくり活動に関わる分野で、社会人として2年以上の実務経験を有する者。(ただし、出願時までにはまちづくり関連の大学院を修了している場合、上記の各分野の社会人として、1年の実務経験とみなす。)

■平成25年度入学試験日程

学生募集要項・入学志望者案内配布 開始日 4月 1日(月)
説明会 4月15日(月) 19:00～
本郷キャンパス 工学部14号館141講義室

出願時期 5月14日(火)～5月24日(金)
入学試験 6月29日(土)
合格者発表 7月12日(金)
入学手続期間 9月19日(木)・9月20日(金)
入 学 10月 1日(火)

※学生募集要項・入学志望者案内の入手方法については、
東大まちづくり大学院のサイトでご確認ください。

■入学試験の内容

筆記試験(英語、専門科目、小論文)、口述試験

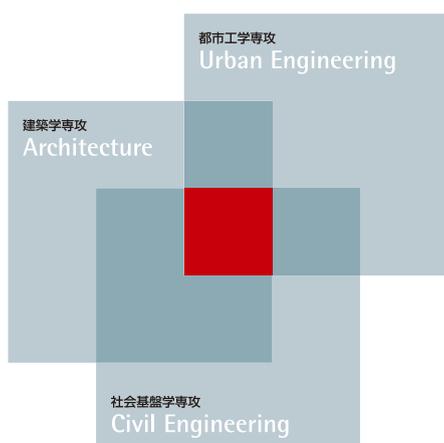
- ※上記の記述(出願資格・入学試験日程・入学試験の内容)は、いずれも予定です。
入試試験の詳細については、必ず「学生募集要項」、「入学志望者案内」でご確認ください。
- ※入試過去問題の販売については東大まちづくり大学院のサイトをご覧ください。

■平成24年度入試結果

募集人員：12名 志願者数：62名
合格者数：18名 入学者数：18名

■学費

入学料：282,000円(予定額)
授業料：年額 535,800円(予定額)



■お問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室内 東大まちづくり大学院デスク

TEL:03-5841-8362 FAX:03-5841-0370

E-mail office@mps.t.u-tokyo.ac.jp URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>